

高級外車を1日70台運転 20年無事故の運びのプロ

会員記事

佐藤英彬 2020年9月27日 6時00分

凄腕しごとにな



車両輸送の現場監督としてチームを束ねる小田巻幸子さん=愛知県豊橋市明海町、谷本結利撮影

総合埠頭 車両部車両現業グループ係長 小田巻幸子さん(46)

自動車の輸入台数が全国1位の愛知・三河湾。岸壁に臨む専用駐車場には、船から陸揚げされたばかりの約3千台の車が整然と並ぶ。フォルクスワーゲンを中心に、アウディ、ポルシェ、ランボルギーニ……。扱うのは、世界に名だたるブランド車だ。

納車を心待ちにしているオーナーのもとに届けるため、そこから整備工場まで一台一台、ハンドルを握って運ぶのが仕事だ。現場監督の一人として、ベテランから新人までを束ねたチームを率いながら、みずからも1日に平均約70台を輸送する。20年間のキャリアで整備工場まで運んだ車は、約37万台にのぼる。

駐車場からフォルクスワーゲングループジャパン(愛知県豊橋市)の工場まで、私設の道路で約1キロしかない。だが、短い道のりの運転を難しいものになっているのが、視界の悪さや気温などの悪条件だ。

輸入車は全て、傷を防ぐためにプラスチック製のカバーで全体を覆われている。そのため運転中の視界は、ほぼ前方のみ。雨などで天候が悪ければ、危険度はさらに増す。また、夏場は車内温度が70~80度まで上がることも。輸送中はホコリが入らないように窓を閉める上、エアコンは必要最小限のため、暑さに負けない集中力がある。



陸揚げされた輸入車に乗り込む小田巻幸子さん。窓の大半が傷を防ぐためのシートで覆われている=愛知県豊橋市明海町、谷本結利撮影

事故や急ブレーキなどによる車へのダメージを防ぐため、車の特性をつかんだ運転をする必要もある。扱うメーカーや車種は幅広く、排気量など仕様の違いも含めれば約30種類。ブレーキを踏むタイミングや、アクセルの効き方、ハンドルのあそびなどが、それぞれ異なる。新車の場合も練習走行はできないため、すべて実際の輸送を通じて体に覚えさせている。

輸送時は、チームで4台ほどの車列を組み、その先頭車に乗り込んで安全に気を配りながら工場に向かう。車に傷をつけないのは大前提だ。「自動車は、お客様からの大切な預かり物」。毎日の朝礼で、メンバーと声に出す。これまでに事故を起こしたことは一度もない。単に輸送するだけではなく、運転しながら車の不具合に気づき、届けた整備工場に報告したこともある。



社内では運転の熟練度ごとに帽子の色が異なる。黒が最高ランク。小田巻さんはもちろん黒だ=谷本結利撮影

現場監督として知恵も絞る。駐車場にビッシリと敷き詰められた車列から、運ぶべき車をどう出すか。前後の車間はわずか30センチほど。駐車場の図面と向き合って鉛筆を走らせ、車を出す手順や通路を考える。効率良く出さないと作業員の残業にもつながるため、搬出計画づくりは「パズルを解く」ような作業でもある。

小学生の時から続けるバスケットボールでは、全国大会に何度も出場した。誰よりも動くため、職場では「アスリート」と評される。この仕事も似ている。限られた人員と時間の中で、工場というゴールを目指す。1人では達成できない、まさに「チームプレー」だ。

この20年間で、職場は大きく変わった。かつては男性中心だったが、フレックスタイム制の導入などもあって女性も増え、今では従業員17人の半数近くを占めるように。育休を取るドライバーも出てきた。現場を束ねるリーダーとして、事故ゼロだけでなく「作業員の働きやすい環境づくりも続けていきたい」と話す。(佐藤英彬)

おだまき・さちこ 静岡市出身。大学卒業後、名古屋のスポーツ用品店の営業職を経て2000年に入社。スポーツ全般が趣味で、中学・高校時代はバスケの名門・常葉学園で全国大会にも出場した。

仕事のみならず、プライベートでも車の運転が好きで、学生時代には北海道を1周したこともある。この仕事を始めたばかりのころは、自家用車で練習に励み、今ではどんな車でも駐車スペースに前後左右を等間隔に停車させる技術を身につけた。普通免許のほか、大型、大型特殊、牽引(けんいん)、普通二輪、大型二輪の免許も持っている。



表面にファスナーやボタンがない制服=谷本結利撮影

新車を傷つけないよう、外側にファスナーの金具やボタンがない制服を着用している。面ファスナーで止めたり、生地の中にボタンをしまったりしている。夜間の事故防止のため、反射材も縫い付けてある。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.